

令和4年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	35	学校名	県立鉾田第一高等学校					課程	全日制課程		学校長名	飯山 美都子						
教頭名	菅谷 則行								事務長名	石川 信生								
教職員数	教諭	51	養護	1	常勤	2	非常勤講師	1	実習教諭 実習講師 実習助手	1	事務職員	4	学校用務員	4	ALT	2	合計	69
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	18					
	普通科		119	117	110	130	112	106			341	353						

2 目指す生徒像

高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒 グローバルな視点と行動力を持った生徒

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ①グローバルな視点を持ち、国内外の各分野のリーダーとして未来を牽引できる人財の育成 ②地域社会の発展に核となって貢献できる人財の育成 ③高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備え社会に貢献できる人財の育成 <p><本校生の未来の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的な機関で社会を支える ・医療従事者として社会を支える ・起業して社会を支える ・企業内のリーダーとして社会を支える
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの多様な学習ニーズに対応する ②生徒の主体的な学習活動、探究活動を重視する ③未来を牽引するための進路実現に向けた高度な学力を身に付けさせる (理工・医療・社会科学の分野のカリキュラム・マネジメントの充実やプロジェクトの実施)
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ①様々な分野に興味を持ち、主体的に探究しようという意欲のある生徒 ②地域の諸課題に関心を持ち、主体的な探究によりその諸課題を解決しようと努める生徒 ③主体的に自分の進路実現を目指し、壁を乗り越え、日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・約9割の生徒が大学進学を希望しているが、目的意識が希薄なまま安易に進路選択をしている生徒も見受けられる。 ・学校推薦型選抜や総合型選抜で早めに進路先を決めようとする安全志向が強く見られた一方、難関大学にチャレンジする生徒、国公立大学の後期試験まで諦めずに受験する生徒も増加した。 ・国公立大学合格者数は71名で昨年の58名から増加し、県内国公立大学にも21名の生徒が合格した。 ・私立大学合格者数は延べ449名と昨年より37名増加し、難関私立大学にも複数合格した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の将来の在り方生き方を含めた進路意識の高揚を図り、多様な進路希望に対応できるよう単位制の利点を活かしたきめ細かい指導を行う必要がある。 ・大学入学共通テストについての情報収集を行い、思考力を高める指導を通して、得点力のアップを図るとともに、国公立二次試験や私立個別試験に向けた指導を充実させる。 ・最後まで第一志望を諦めず、主体的に目的意識を持った進路決定が出来るよう支援する。 ・様々な入試方式に対応するため、小論文指導や面接指導の充実を図る。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的事項は定着率が高いが、発展的な内容となると基本事項を応用できない傾向が高く、表面的な学習に留まっている生徒が少なからず存在する。また、ICT機器を効果的に活用し、生徒の主体性を高める指導等、十分には確立されていない状況である。 ・与えられた課題に取り組む姿勢は、しっかりと身につけている生徒が多い。しかし、自分の強み、弱みを理解し、自分が身につけるべき資質、能力が何なのかを意識して学習に取り組んでいる生徒は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業においてICT機器の積極的な活用や少人数授業における主体的・対話的な学びを推奨し、より深い学びに繋がる授業展開の方策を研究し続けることが必要である。 ・生徒一人一人が自分自身の学習の理解度や学習への主体性、学習方法等を評価することで、自身の学習の状況について客観的に認知し、よりよい方向に修正するなど自らの学習について調整する力の育成を図る。

特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動など、生徒主体の特別活動が活性化してきている。 7割強の生徒が部・同好会に加入しており、運動部、文化部ともに県大会、関東大会、全国大会への出場等を目指して活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事への主体的参加やHR・生徒会・委員会への自主的な取り組みを育み、グローバル社会に適応できるコミュニケーション能力や社会性の育成が必要である。 限られた部活動時間での指導法の工夫が必要である。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 素直で真面目な生徒が多い。しかし、大きな問題行動等は起こさないが、制服の細やかな着こなしやスマートフォンの利用状況など、ルールやマナーを守れない生徒も見られる。 家庭環境や心の問題等でケアが必要な生徒も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に問題行動やリスクマネジメントの啓発、指導を継続的に行う必要がある。 全職員で共通理解のもと統一した指導の徹底を図る必要がある。 内面的な指導が必要な生徒に、各部署と連携した指導体制を整える必要がある。
開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやフェイスブックで常時最新の情報発信を行っている。 スクールガイド等の作成やオープンキャンパス、学校公開授業を通じての広報活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員制度の活用やホームページ、アンケートなどの広報広聴活動を工夫し、家庭・地域社会との連携を目指した、より効果的な活動が必要である。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導、部活動その他の指導、生徒の安全・安心な学校生活のため、また学校のシステム上、勤務時間が長くなる傾向にある。しかしながら、ICTの活用等、業務の効率化により、働き方改革をさらに進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容や教材の共有化、ICT機器のより効率的な活用。 協働的な業務運営により、教員が疲弊せず、生き生きと働ける体制の構築。

5 中期的目標

<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用を含めた教科指導の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。 確かな学力を身につけさせるため、カリキュラムの検証を図り、生徒の多様な希望に応える指導体制を充実させる。 キャリア教育や探究活動に重点をおいた教育を展開し、自己の生き方や在り方に対する考えを深め、様々な課題に向き合い、挑戦する力を育む。 学校行事や部活動・特別活動を通して、主体性や豊かな人間性を育み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成していく。 広報活動の充実や学校評議員制度の活用など家庭・地域社会との連携を図り、保護者・地域社会の期待に応える学校づくりを進める。 教職員一人一人が勤務時間についての意識改革に努める。
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力・授業の質の一層の向上	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の積極的活用と同時に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直しを図る。 授業理解のための予習・復習を基本に、日常的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平日の最低学習時間＝学年＋1時間を目指す。 基礎基本を定着させ（「課題テスト」の年間30回実施を継続）、発展的または探究的学習に繋がる粘り強い学習姿勢の習得を図る。 授業力向上のため、教員間の授業参観と観点別評価の研究を推進し、職員の指導力及び授業の質の改善および向上につなげる。 指導力向上のため、職員が外部講習等に積極的に参加する。
個に対応した指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用により授業や週末講座等を効果的に行い、個別最適な学びの促進を図る。 手に届きやすい目標設定を行うなど工夫を通して、習熟度別授業の指導方法、指導内容を充実させる。 少人数授業は対話をベースとし、生徒一人一人が意欲的に授業に取り組めるよう授業方法の創意工夫を行う。 振り返りを行い、自己の学習を調整する力を身につけさせ、その内容を教師と共有することで、学習するポイントと指導するポイントの一致を図る。
進路意識・進路実績の一層の向上	<ul style="list-style-type: none"> 進路指針「山王プロジェクト」を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や進路目標達成につなげる。 各年次の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方生き方について考えさせる。 生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し、収集した正確な情報を進路指導に活用する。 国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。
特別活動・部活動の一層の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事への積極的参加を促し、HR・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組む、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 部活動においては、県大会以上の大会に出場できる部や生徒数を増やす。 学校行事後に感想をまとめたりキャリアパスポート等を利用することにより、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。
マナーや規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が共通理解を持って指導にあたり、生徒が率先してルールやマナーを順守できる態度を育てる。 全体的な取り組みと合わせて、生徒個々に対応した指導を図る。
学校評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価、外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握し、生徒の探究活動と連携しながら新しいイメージを発信していく。 ホームページやアンケート等の広報広聴活動について、ICTを駆使してさらに工夫し、充実させ、学校を活性化させる。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行う。 ICT活用等を推進し、事務作業の効率化や教材の共有化を進める。 教職員一人一人が自身の働き方についての意識を高め、仕事と私事ともに大切にしながら、生き生きと職務にあたることができるよう努める。